



外国人対応消防指導教材映画『To Save Lives ～国境を越えて～』の制作及びモデルケース的運用



新潟県 上越地域消防局

事例類型 Ⅲ 効率化、Ⅳ 他団体との連携、Ⅷ その他

取組期間 令和2年1月から

背景

年別訪日外国人数はこの10年足らずで3倍以上に急増し、令和元年には約3,200万人に上った。令和2年は例外にせよ、今後もこの傾向は続くことが予想される。

東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会を控え、この訪日外国人及び彼らが利用する宿泊施設、公共施設等に対し、日本のきめ細やかな消防指導を行き渡らせ、以て全体の自衛消防体制を強化することは全国的課題とされてきたが、これを容易ならざるものにしてきた主要原因の1つに「言葉の壁」がある。

当局管内においても赤倉温泉郷を中心としたスキーリゾートを訪れる外国人はもとより、外国人が経営する宿泊施設が年々増える状況下において、消防職員個人の語学力に左右されない、有効かつ画一的な消防指導を実現するための手段を模索し続けてきた。

内容

1. 外国人対応消防指導教材映画『To Save Lives』の制作

市民、国民からの期待に等しく応える上で、相手の母国語によって消防指導に質的格差が生じてはならない。そこで当局としては、アフターコロナのインバウンドを万全の態勢で迎えるため、人種の隔てなく理解できるよう、全編英語のナレーションベースで進行する教材映画『To Save Lives』を制作した。

本映画には、小規模ホテルでの火災を通じ、老人、怪我人、酔客等の多彩な外国人宿泊客達が、勇気ある支配人夫妻の指示の下、力を合わせて避難を完了するまでが描かれている。従来の火災シミュレーションと異なり、物語中、刻々と変化する火災に対処すべく、消火、避難や二次災害防止等に係る技術が豊富に盛り込まれた極めて現実的な内容でありながら、視聴対象を民間人に特化しているところが特徴といえる。

そして、視聴者が外国人を始めとした一般人である以上、専門的な学びの中に大衆性を持つものが理想的であり、それが、この30分間の動画教材が、終始、スリリングなエンターテインメントに徹し



て仕上げられている所以である。

なお、本映画のもう1つの特徴である全編英語のナレーションは、米国在住経験のある当局担当者が吹き込み、和・英の字幕を選択できることで、視聴者の幅を、聴覚障害者にも広げている。

2. 『To Save Lives』の運用事例

(1) 管内在住の外国人に対する避難訓練指導

当局管内のスキーリゾートには、英語圏の外国人が経営する宿泊施設が50軒存在しており、例年、訪日外国人はこれら施設に好んで長期滞在する傾向にある。

このことから、スキーシーズンに先立ち、施設関係者が『To Save Lives』を視聴し、物語中で学んだ避難、消火、通報、救助技法を実技で体得する訓練を行った。

(2) 県境を跨ぐ地域ぐるみの合同避難訓練指導

管内に赤倉温泉郷を擁する当局と、野沢温泉郷を擁する長野県岳北消防本部は、特に冬季間、外国人人口が増す地域特性を共有している。これら2機関が県境を跨いで共に管轄する斑尾高原において、飲食店、宿泊施設関係者等を対象に『To Save Lives』の上映会と避難訓練を共催することで、組織の垣根を越え地域ぐるみで自衛消防体制の強化を図った。

また、当日は、当局担当者が全行程を日本語・英語の同時通訳方式で進行するデモンストレーションを行い、今後の外国人指導のモデルケースとして提案した。



あらかじめ映画で学んでおけば、実技訓練に詳しい説明は不要。



映画に真列に見入る訪日外国人達。



和・英の字幕で映画を同時上映、言葉の壁を超えて認識を共有。



映画の後には、日本人も外国人も一緒に、地域ぐるみで訓練を行う。

(3) 上越教育大学附属中学校での官学連携英語防災教育事業

『To Save Lives』は語学教材としての有用性から管内中学校3年生用教材としてすでに採用されている。この機を捉え、当局は、地域全体に持続的自衛消防体制を確立するため、将来世代への防災教育を、英語教育に融合させる発展的授業を行った。



ALTが行う119番通報訓練を通じた、リスニング学習。



訓練想定は高校受験英語レベルで用意。

成果

まず、各取組の中核となった『To Save Lives』は、上映中、外国人達の息を飲む音や時折弾ける笑い声、そして、エンディング時の鳴り止まない拍手から、映画として一定の客観的評価に値するものと考えている。このことは、彼らが自らの施設でもスタッフにこれを見せて勉強させたいと、DVDの貸し出しをこそって要望してきたことから裏付けられているといえる。

また、県境を跨いで地域ぐるみの避難訓練を共催した岳北消防本部は、管内の野沢温泉郷でも、本映画を取り入れた消防指導を積極的に行っていくことを計画している。

官学連携事業については、学校側が、今後も防災教育を英語リスニング教育に融合させる授業の継続に意欲的であることから、当局からは本映画に用いられたナレーション用スクリプトを提供し、これを全面的に支援していく。

以上のとおり、『To Save Lives』は、外国人に対して消防職員個人の語学力に左右されない、有効かつ画一的な消防指導を実現するだけでなく、将来的に様々なシーンで活用されていく大きな可能性を示している。

特記事項

『To Save Lives』の紹介動画(和・英字幕)は上越地域消防局のYouTubeチャンネルで公開しており、対外的運用については目下準備を進めている。

選考委員のコメント

外国人の宿泊者や従業員が多いという地域の特性を踏まえた防災啓発動画の作成として評価できる。内容も完成度が高く、近隣の消防本部でも利用され始めていること、中学生向けの英語学習や防火知識向上の教材にも活用されていることは素晴らしい。